県立高等学校教育課程課題研究（国語）

－資質・能力の育成を目指した領域ごとの評価について－

平成30年に改訂された学習指導要領において，育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理され，それに伴って観点別学習状況の評価について，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点に整理された。そこで，本研究では，「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができるパフォーマンス課題の開発と，「思考・判断・表現」を見取ることができる考査問題の開発に取り組んだ。教員の「評価疲れ」を防ぐために，効率のよい評価方法を研究し，各学校の実情に合わせて活用できる実践例を示した。

＜検索用キーワード＞　高等学校国語科　パフォーマンス課題　考査　評価

運営委員長
愛知県立豊田北高等学校長　河合　龍二（令和４年度）
運営副委員長
愛知県立千種高等学校教頭　渡辺　英樹（令和４年度）
運　営　委　員
高等学校教育課指導主事　大河　靖知（令和４年度）
高等学校教育課指導主事　亀田　　篤（令和４年度）
高等学校教育課指導主事　谷川　　翼（令和４年度）
研　究　員
愛知県立瑞陵高等学校教諭　西本　花織（令和４年度）
愛知県立松蔭高等学校教諭　富田めぐみ（令和４年度）
愛知県立瀬戸工科高等学校教諭　水野　司麻（令和４年度）
愛知県立春日井高等学校教諭　霜鳥　　誠（令和４年度）
愛知県立高蔵寺高等学校教諭　川野　恭一（令和４年度）
愛知県立岡崎西高等学校教諭　有馬　彰吾（令和４年度）
愛知県立安城高等学校教諭　土屋　豊樹（令和４年度）
愛知県立鶴城丘高等学校教諭　石川　　彩（令和４年度）
愛知県立高浜高等学校教諭　渡邉　友章（令和４年度）
愛知県立豊橋西高等学校教諭　西村　光剛（令和４年度）
愛知県立豊橋商業高等学校教諭　高須　伸吾（令和４年度）
愛知県立御津高等学校教諭　細澤　美沙（令和４年度）
総合教育センター研究指導主事　三浦千加子（令和４年度主務者）

１　はじめに

平成30年に改訂された高等学校学習指導要領が今年度から年次進行で実施されている。今回の改訂では，育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理され，各教科の目標もそれに合わせて，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理された。さらに，国語科では，「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」という六つの科目が設定されており，実施に向けてはそれらの科目の特性を十分に理解しておく必要がある。特に，「現代の国語」においては「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の授業時数が「読むこと」を上回って設定されており，その他の科目についても，各領域における授業時数が示された。このことは領域ごとの指導が資質・能力の育成に直結することを表している。こうした状況を踏まえて本研究会では領域ごとに異なった主眼を置き，「主体的・対話的で深い学び」を具現化することができるような授業を研究した。また，その評価についても「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という観点別学習状況の評価の在り方と評価を指導に生かすことができるようＰＤＣＡサイクルを回していく指導と評価の一体化についても研究を進めてきた。

今年度は特に観点別学習状況の評価について，「主体的に学習に取り組む態度」を見取ることができるパフォーマンス課題を開発し，その評価の在り方についてルーブリックを作成するなど具体的な方法の研究を行った。また，考査問題の開発についても研究し，「思考・判断・表現」を効率よく見取ることができるよう，考査問題の特性を生かした評価について，何度も研究協議を重ね，研究成果につなげた。

２　研究の目的

観点別学習状況の評価を適切に，かつ教員の「評価疲れ」を起こさないよう効率的に実施するための評価方法を提案することが目的である。特に授業内ではパフォーマンス課題を通して「主体的に学習に取り組む態度」の評価をどのように行うか，考査問題については「思考・判断・表現」を見取るためにはどのような問題を作成すればよいのかについて研究した。また，本研究会では単元案の充実を従来から大切にしてきた伝統を踏まえ，パフォーマンス課題を設定する上で，「主体的・対話的で深い学び」を具現化するための指導について，その単元構想を「指導と評価の計画」として提案した。

３　研究の方法

(1) 観点別学習状況の評価について，パフォーマンス課題と考査の二つの班に分け，その評価の方法について検討した。パフォーマンス課題を開発する班は，更に領域別に三つのグループに分け，ペアで指導計画・パフォーマンス課題の開発・評価方法ルーブリックの検討を行った。考査問題を開発する班も，領域別に三つのグループに分け，指導計画・パフォーマンス課題・評価方法の流れを検討した上で，考査問題の開発と採点基準を検討した。

(2) パフォーマンス課題は実際に授業内で扱い，考査問題も実際に考査で出題した。研究協議会でそれぞれの実践報告を基に課題について全体で協議し，研究の充実を図った。

４　研究の内容

(1) 「話すこと・聞くこと」の授業研究〈構成を工夫しながらスピーチをしよう〉

「現代の国語」において「スマートフォンを持ち始める中学生にメディア・リテラシーについて考えてもらうためのスピーチを行う」というパフォーマンス課題を設定した。観点別学習状況の評価の三つの観点のうち「思考・判断・表現」については，指導事項(1)のイ（構成の検討）を基にルーブリックを定めた。スピーチは４人班の中でのグループ内発表とし，スピーチ原稿についてはルーブリックを用いて分析することで評価を行った。また，「主体的に学習に取り組む態度」は粘り強さの側面と学習の調整の側面を分けてルーブリックを設定した。スピーチの様子と他者のスピーチを基に改善しようとする様子を分析し，評価を行った。他の担当教員ともルーブリックを共有することで，同一に近い基準で評価することにつながった。妥当性と信頼性を保ちつつ，効率を考慮した評価の方法について提案した。

(2) 「書くこと」の授業研究〈翻案小説を書こう〉

「文学国語」における「書くこと」の指導では，「読み手を意識した独創的な文章」を書くことが求められる。本単元では寓話を翻案した，佐野洋子「ありときりぎりす」の分析から始め，他の物語の骨子を借用しながら視点や構成を工夫し，原作とは異なる寓意的な解釈ができる作品に書き換える活動を行った。「主体的・対話的で深い学び」となるように，第１次，第２次ではペアワークなどの活動を多く取り入れ，第３次では他者の作品を読ませて相互評価を行った上で自己評価を行った。本実践の観点別学習状況の評価では，「思考・判断・表現」の評価に生徒同士の相互評価を取り入れること，「思考・判断・表現」の評価と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を同時に行うこと，の二点を試みた。振り返りにはＩＣＴ機器を利用し，自由記述欄の他に，選択肢から選んで答えるものを併用して行った。

(3) 「読むこと」の授業研究〈自分の考えを意見文にまとめよう〉

「論理国語」における「読むこと」の指導を想定し，「自分の考えを深める」ことを目標に，指導事項(1)のカを評価規準に定めて実践を行った。「多様な論点や異なる価値観と結び付け」るために調べ学習を行い，自分の考えを意見文にまとめ，相互評価を行った。さらに，振り返りで相互評価による気付きをまとめさせることで，「自分の考えを深める」ことにつなげた。「主体的に学習に取り組む態度」は調べ学習への取組と振り返りから評価した。この評価が生徒自身の内省的な振り返りをもたらし，どのような学びを得られたかを明確に気付かせる機会となった。課題としては，目標に向けた振り返りができるよう指示の仕方に留意する点と，評価のために膨大な量の振り返りを読むことが必要となる点である。本発表ではこの具体的な改善案についても提案した。

(4) 「話すこと・聞くこと」の考査研究〈話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう〉

「現代の国語」における「話すこと・聞くこと」の領域において，「思考・判断・表現」を考査で評価するために，自分の立場を明確にした上で，話し合いの状況に応じて表現を工夫したり，進行の過程や結論の出し方を工夫したりする力を測る考査問題を作成した。まず，話し合いを進行する際の「自分の立場や考えを明確にすること」を問う問題を設定し，次に「相手の反応を見ながら表現を工夫すること」を問う問題で，遠慮気味に返答したＤさんへの配慮を考えさせた。そして，「論点を共有しながら，話合いの状況に応じて，進行や結論の出し方を工夫すること」を問う問題を設定し，Ｂさんが意見を変えた状況や理由について把握しようとする想像力や，他者の意見を調整し，結論に導くための表現力を測ることができた。

(5) 「書くこと」の考査研究　〈表現の工夫をしよう〉

「言語文化」における「書くこと」の領域において，本単元では，「自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開や，文体，描写，語句などの表現の仕方を工夫することができる」という単元目標を設定し，授業展開，並びに考査とその評価を考察した。授業では，『枕草子』「はしたなきもの」の表現上の工夫と，それによって得られる効果を学び，その上で「はしたなきもの」に倣って随筆をつくった。考査では，「はしたなきもの」に倣って執筆したＡさんの随筆を示し，「表現したいことを明確にする力」を問う「Ａさんの随筆のタイトルを答える問題」と，「表現の仕方を工夫する力」を問う「Ａさんの表現上の工夫とその効果を答える問題」の２問を出題した。パフォーマンス課題では測ることができない側面を見取る考査問題の開発に取り組んだ。

(6) 「読むこと」の考査研究〈和歌の内容について読み取ろう〉

本研究は「言語文化」「読むこと」の「作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈することができる」を単元の目標とし，内容を理解し，解釈する力とそれを踏まえて表現する力を測る考査問題の作成を行った。授業で男の詠んだ「筒井筒～」(『伊勢物語』) の和歌の解釈をグループで取り組ませ，ルーブリックを用いて相互評価をさせた。そこで，考査では女の詠んだ「くらべこし～」の和歌について，本文の内容を踏まえつつ，和歌に詠まれた女の心情を自分の言葉で説明させる問題を設定した。考査問題の作成に当たっては，「思考・判断・表現」の観点全てを踏まえることや，問いが曖昧になり，解答が主観的になってしまうことなどが課題となった。本研究を通じて，身に付けさせたい力を測る適切な考査問題の作成方法と持続可能な評価方法の検討材料を提案した。

５　研究のまとめと今後の課題

今回の研究は，観点別学習状況の評価について特に各学校が課題と感じているであろう「主体的に学習に取り組む態度」を見取るためにはどのようにすればよいかということに端を発している。単元の目標に沿った力を育成するために，取り組ませるに適したパフォーマンス課題の開発と，パフォーマンス課題を通して「思考・判断・表現」だけでなく「主体的に学習に取り組む態度」を効率よく評価するためのルーブリックを提案した。

また，考査問題で「思考・判断・表現」を評価することができることを目指したが，その際，単元の指導目標や評価規準に常に戻るよう心がけつつ，効率よく評価できるような問題を提案した。

必履修科目については，各学校の観点別学習状況の評価の状況について，情報を集め，今後の研究に生かしたい。また，今回提案した「文学国語」と「論理国語」については，次年度以降の実施となる。更に実践を積み重ね，研究していきたい。

６　おわりに

新学習指導要領の実施に伴い，観点別学習状況の評価については評定への総括を行うことが示され，学校では評価の在り方に関心が集まっている。本研究会では評価の場面を精選し，適切に行いつつも効率よく評価することが重要として，効率のよい評価方法を研究してきた。この評価は指導や学習の改善につながることが肝要であり，評価のために教員が疲弊することは防がなければならない。本研究が多くの学校における効率のよい学習評価のための足がかりとなることを期待したい。

＜授業研究 1＞構成を工夫しながらスピーチをしよう（現代の国語　話すこと・聞くこと）

１　研究の背景

「現代の国語」を受けもつことになった教員は「話すこと・聞くこと」領域をどのように指導・評価をすればよいか頭を悩ませただろう。現状では指導方法が体系的に確立されておらず，３観点の評価方法についても手探り状態と言えるからである。こうした中，適切な指導・評価をする上で重要となるのは，単元の目標に合った言語活動の設定だと考えられる。そこで，本研究では「自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫することができる」（Ａ話すこと・聞くこと(1)のイ）ことを単元の目標とし，「スマートフォンを持ち始める中学生にメディア・リテラシーについて考えてもらうためのスピーチを行う」というパフォーマンス課題（言語活動）を設定した。そして，観点別学習状況の評価の三つの観点のうち「思考・判断・表現」については，単元の目標を踏まえて構成の検討を基にルーブリックを定め，スピーチ原稿を提出させることで評価することとした。「主体的に学習に取り組む態度」については，グループ内で行うスピーチの様子を評価することとした。この際，粘り強さの側面と学習の調整の側面を分けて評価を行った。その結果，評価のポイントが明確になり同科目を受けもつ教員とのすり合わせもスムーズに行うことができた。３観点を指導・評価する上で妥当性と信頼性をもちつつ，教員の「評価疲れ」を防ぐ効率的な評価方法について研究を進めた。

２　単元の目標

(1) 文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。〔知識及び技能〕(1)オ

(2) 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。〔知識及び技能〕(2)エ

(3) 自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ(1)イ

(4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力，人間性等」

３　指導と評価の計画

科目名	現代の国語	学年 類型	１年	単位数	２単位	話すこと 聞くこと	○
単元名	確かな情報を伝えるために					書くこと	
教材	押井守「ひとまず，信じない」					読むこと	
単元の評価規準							
知識・技能	思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		

・文，話，文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。（(1)のオ） ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。（(2)のエ）	・「話すこと・聞くこと」において，自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫している。（A(1)のイ）	・構成を工夫しながらスピーチする活動を通して，自分の立場や考えを明確にし，自分の考えが的確に伝わるよう積極的に話そうとしたり，他者のスピーチから自分の考えを深めたりする中で自らの学習を調整しようとしている。

主たる言語活動

メディア・リテラシーについて構成を工夫しながらスピーチする活動

時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
1	**「情報はつくられる」とはどういうことか，理解し説明する。** ①３枚の写真(1.南米アマゾン熱帯雨林を写した衛星写真 2.火災の写真 3.息絶えた赤ちゃん猿を抱える親猿の写真)を見て「情報はつくられる」を通読する。 ②シンキングツール「クラゲチャート」を使って，「情報はつくられる」とはどういうことか説明するために，思考を整理する。 ③「情報はつくられる」とはどういうことか，100字～200字で説明する。その際，ペアで協力して説明文をつくり，二人でひとつの作品をロイロノート・スクール(株式会社LoiLo,以下「ロイロノート」と表記)に提出する。	○			記述の確認 （ロイロノートの提出箱）
2・3	**情報と適切につきあう方法について話し合う。** ④押井守「ひとまず，信じない」を通読する。 ⑤「OneNote」に送った資料(授業用PowerPointのスライド)を使いながら本文の主旨を理解する。 ⑥「情報と適切につきあう」方法を考える。その際，シンキングツール「ピラミッドチャート」を使って，スピーチの型(構成)を意識する。 ⑦４人グループをつくり，「情報と適切に付き合う方法」を話し合う。 ⑧学びの手応えをロイロノートに提出する。		○		・行動の点検 （グループでの話し合い活動） ・記述の確認 （ロイロノートの提出箱）
4・5	**メディア・リテラシーについて構成を工夫しながら，スピーチの原稿づくりをする。** ⑨パフォーマンス課題(メディア・リテラシーについて構成を工夫したスピーチ原稿)の内容，評価基準を理解する。 ⑩パフォーマンス課題をロイロノートに提出する。		◎		記述の分析 （ロイロノートの提出箱）
6	**グループでスピーチを行い，改善点を考える。** ⑪自分のスピーチ原稿を振り返る。 ⑫原稿を基に４人グループでスピーチを行う。 ⑬他者のスピーチから得た気付き，そこからの改善点をシンキングツール「キャンディシート」に記入し，ロイロノートに提出する。相互評価をFormsにて行い，特に「話し手の考えが伝わったかどうか」を評価する。		○	◎	・行動の分析 （グループでの話し合い活動） ・記述の分析 （ロイロノートの提出箱）

	⑭定期考査	◎	◎		定期考査

※重点項目の欄について，指導に生かす評価には「○」を，記録に残す評価には「◎」を付す。

ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現	メディア・リテラシーについて，構成を工夫しながら，新たに加えた資料を結論と対応させつつ話している。 ※新たに加えた資料とは自分の経験談ではなく，適切な引用をしながら提示される資料を指す。	メディア・リテラシーについて，構成を工夫しながら話している。	メディア・リテラシーについて，話している。
	レベル３	レベル２	レベル１
主体的に学習に取り組む態度	学習の調整(態度 α) スピーチ(の原稿)について，構成や引用の仕方，内容などを複数取り上げて，具体的に改善しようとしている。	スピーチ(の原稿)について，構成や引用の仕方，内容などを一つ取り上げて，具体的に改善しようとしている。	スピーチ(の原稿)について，構成や引用の仕方，内容などを改善しようと努めている。
	粘り強さ(態度 β) 相手を説得できるよう，一人一人の目を見て，はっきり話そうとしている。	相手に伝えようと，はっきり話そうとしている。	相手に伝えようと話そうとしている。

４　学習活動の実際

単元の始めに，パフォーマンス課題として「スマートフォンを持ち始める中学生にメディア・リテラシーについて考えてもらうためのスピーチを行う」と明示した。アウトプットを目標とすることで，生徒は単元全体において能動的に取り組んでいた。第１次において「情報はつくられる」ことを積極的に理解しようとした。第２・３次においてはスピーチの型（構成）を意識しながら話す練習をした。この時間では，シンキングツール「ピラミッドチャート」を用いて思考の整理をした。生徒の中には，授業時間ではスピーチの型（構成）をつくることができず，うまく話すことができなかった者がいた。そのような生徒には「この時間で構成を意識したスピーチができなくてもよい。単元の終わりで行うパフォーマンス課題までに，構成を工夫したスピーチができるようにしよう」と声をかけた。

スピーチ原稿の作成について，ＩＣＴを活用して行ったところ，ほとんどの生徒が，スピーチの型（構成）を工夫した原稿をつくることができた。また，インターネットでさまざまな情報を検索して，調べた情報を原稿作成に生かしていた。しかし，原稿を作成する上で，引用文だと分かるように書く，自分の文章が「主」で，引用は「従」で書く，ウェブページからの引用はＵＲＬや記事の題名などを明記する，といった「適切な引用」ができていない生徒が多いことが分かった。「適切な引用」は，「思考・判断・表現」の観点のＡ評価に深く関わる。そこでパフォーマンス課題に取り組んでいる時間に，「適切な引用」についてたびたび指導した。今回は単元の目標としていなかったが，〔知識及び技能〕の(2)情報の扱い方に関する事項オ「引用の仕方や出典の示し方，それらの必要性について理解を深め使うこと」についても指導の必要性を感じた。

第６次にて，グループでスピーチを行い，その後，自分のスピーチ原稿を振り返り改善点を考えた。

改善点を書き，提出させたワークシートに「引用した内容を言う前に，『総務省の公式サイトから引用しました。』と入れればよかった」という記述があった。教員による一斉指導では「適切な引用」法の理解ができなかった生徒が，他者の意見を参考にして学習の調整をしようとする姿が見られた。

５　評価の実際

この単元で取り扱う「話すこと・聞くこと」の指導事項は(1)のイで，構成の検討が核となる。人前でスピーチをする際に，話の構成や展開を考えるため原稿を書いた経験があるはずである。そこで，本研究では単元の目標に即して「思考・判断・表現」の観点は，スピーチ原稿をもって評価することとした。１学年 239 名を評価したところ，「十分満足できる」状況（A）と「努力を要する」状況（C）がそれぞれ１割弱で，「おおむね満足できる」状況（B）が８割強となった。

「主体的に学習に取り組む態度」は第６次の活動で評価した。スピーチ原稿を基に４人組をつくってスピーチを行い，その様子から粘り強さの側面を評価した。40 人クラスの場合，10 グループできることになるが，10 人が一斉に話している様子を公平に評価するのは難しいので，10 グループを半分に分け，５グループずつスピーチを行った。実際に５人のスピーチの様子を分析して評価することは可能であった。グループでのスピーチを終えて，他者から得た気付きと自らの改善点をワークシートに記入しロイロノートに提出させた。その後，提出された文章を読み，学習の調整の側面について評価した。最終的には，二つの側面を総合して評価をつけた。１学年 239 名を評価し，「十分満足できる」状況（A）が５割強で「おおむね満足できる」状況（B）が４割強，「努力を要する」状況（C）が１割弱だった。

【資料】主体的に学習に取り組む態度　二つの側面の総合評価

［態度α］ 自らの学習を調整しようとする側面	レベル３	B	B	A
	レベル２	B	B	B
	レベル１	C	B	B
		レベル１	レベル２	レベル３
		［態度β］ 粘り強い取組を行おうとする側面		

６　研究の成果と課題

(1)　「思考力・判断力・表現力等」について（Ａ基準の改善）

パフォーマンス課題はロイロノートで提出をさせた。提出状況が把握しやすく作品の比較が容易にできた。また，評価に悩む課題は Microsoft Teams のチャット機能を使ってデータを共有し，教員間で随時すり合わせを行った。そうすることで「評価のズレ」を最小限に止め，公平性を保つことができた。

今回は「構成を工夫しながら，新たに加えた資料を結論と対応させつつ話している」ことをＡ基準とした。来年度以降の改善案は，傍線部の部分を「聞き手の関心を引きつつ」とする。「聞き手の関

心を引く」方法の一つとして適切な引用がある。適切な引用にだけ焦点を当てるのではなく，指導事項（Ａ話すこと・聞くこと(1)イ）をより深めたものに変更する。

(2) 「聞くこと」の留意について

単元の最後に，スピーチの相互評価を行う機会を設ける。特に，「話し手の考えが伝わったかどうか」を重視して評価するように指導を行う。相互評価はMicrosoft Formsを用いた。従来の紙で行う評価と違い，収集や整理を即時に行うことができた。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」について

突出して優れているものが「十分満足できる」状況（Ａ）となるようにルーブリックを検討する。来年度以降の改善案として，学習の調整の側面は「スピーチ（の原稿）について，構成や引用の仕方，内容など三つの面を取り上げて，具体的に改善しようとしている」と変更する。粘り強さの側面は「自分の考えが的確に伝わるよう，一人一人の目を見ながら，身ぶり手ぶりなどを交えつつ，はっきり話そうとしている」と変更する。

「主体的に学習に取り組む態度」の二つの側面を分けることで，評価のポイントが見やすくなり，評価で悩むことが少なくなった。「粘り強さ」の側面はグループワークの態度で評価した。このため，授業中に評価を終えることができ，授業外で評価に費やす時間を削減できた。「学習の調整」の側面を評価するワークシートは，パフォーマンス課題と同じようにロイロノートで提出させた。課題の提出をさせる際にＩＣＴを活用することで，評価を効率的に行うことができ，時間が短縮されると強く実感している。

スピーチ原稿【提出】

A

みなさんはフェイクニュースという言葉の意味は知っていますか。フェイクニュースとは、特にメディアで拡散される情報の中で真実とは異なる情報、簡単に言うと嘘の情報のことを言います。これからこのフェイクニュースについて話していきたいと思います。

２０２０年の２月ごろ、世界では今よりもコロナウイルスが話題になっていた時期でした。SNSでトイレットペーパーが品薄になるという嘘の情報すなわちフェイクニュースが出回りました。トイレットペーパーは中国で主に生産されており、輸入量が少なくなってしまうとデマ情報がネットで広がり、これを見た消費者がこの情報は真実だと思い込んでしまい、なくなることへの不安で皆が買い込みました。

例

このような問題に対してメディア研究者の平 和博さんは「一番必要なのは、やはり『自分の頭で考える』そこが第一になるんじゃないかなと考えています。」と情報を受け取る側が気を付けることを指摘しており、また「まず事実を伝え、次にデマの内容を伝えて、さらに事実で念押しをする。」と情報を発信する側にも問題があったと指摘しています。

引用

SNSなどの情報はすべて真実ということはありえません。なにか調べものをするときには一つの記事を見るだけでなく必ず複数の記事を見たうえで自分で判断する事が大切だと考えます。また、情報を発信する側も受け取る側にいかに正確に情報を出せるかという方法や情報収集の仕方など改めて考える必要があると考えます。

主張

フェイクニュースは今後も増え続けることは間違いないと思います。その中でいかに私たちが正確な情報を手に入れることができる力を持っているかが大切になってくるのです。

皆さんはインターネットを上手く活用できていますか？インターネットは、便利なこともありますが、一方で間違った情報をインターネット上に流したり、嘘の情報を本当の情報かのように拡散したりという恐ろしいことも起こっています。

導入

今、ロシアがウクライナに侵攻し、戦争が起こっていて、戦争の映像をインターネット上に投稿する人が多く見られます。特に映像として切り取られたものは、戦争という現実のごく一部で、現地にいる人がインターネット上に何かを発信していたとしても、それはその人が得た情報でしかありません。また、その情報を発信している人が兵士なのか民間人なのかにより、情報の信頼度や中身は大きく変わってきます。

例

警視庁のホームページでは、情報の拡散について、「うわさや情報は、直接会って広まるものでしたが、インターネットの普及によってより簡単に広まるようになりました。」と書かれています。また、疑わしい情報を判断するヒントについては、「ウソの情報は、強調表現や不安をあおる表現で信じ込ませ、急いで拡散させようすること」と「リンク（情報源のURL）や根拠が記載されていない場合」に注意をすることだと書かれています。

結びつかない　引用

情報がすぐに広まる今の時代は、自分がインターネットで得た情報が事実か確かめることは大切です。しかし、全ての情報を確かめる時間をとるのは難しいため、疑わしい情報を確かめることが必要となります。私達は、情報について理解し、インターネットと上手く共存していく必要があるのです。

?

B　主張

フェイクニュースについて発表します。
突然ですがみなさんは、メディア・リテラシーが身についていますか？メディア・リテラシーを身につけるには国語力を鍛える、情報の発信元を確認する、似た情報と比較するなどがあります。
ここでフェイクニュースについて話します。
フェイクニュースとは、マスメディアやソーシャルメディアなどで、事実と異なる情報を報道する、あるいはそのような報道を行うメディアそのもののことです。虚偽であるとわかった上で架空報道や、推測を事実のように報道するなど、故意のものについては捏造報道とも言います。
少し私の経験談をはなします。ネット通販で買い物をした時に違う商品が届いたり、写真と違う物が届いたことがあります。そこで口コミやレビューを見てみると私と同じことを思っている人がいました。私はこの経験から、写真にとらわれず口コミやレビューを事前に確認して、信頼できる物を買おうと考えることが出来ました。
ネット通販の他にも事実と異なる情報がたくさんあります。２０１９年に、南米アマゾンの熱帯雨林で大規模な火災がおきました。その際に広がる火災を写したとされる写真がインターネット上で拡散されました。しかしその写真の中には、数十年前に撮影したものや異なる場所で発生した火災を写したものがあることが明らかになりました。フェイクニュースの拡散を防ぐために、メディア・リテラシーを身につけましょう。

C

学習の調整、評価シート

工夫したこと（スピーチ前）		気付き→改善策（他の人のスピーチを聞いた後）
大きく二つの例を挙げて話の構成を作った 最初と最後に言いたいことをはっきりと表す	構成	問いかけから始まり（聞き手に注目させる）、いくつかの大きな観点、まとまりにわけて簡単に説明 問いかけや、確認のように聞き手に注目させるように始めたい
教科書のサイバーカスケードについてと最近のワードを取り入れた	引用	自分の具体的な体験談と、教科書の引用や、有名な事例を引用して活用していた 有名な事例、聞き手を引き付ける話題を引用していきたい
インターネットの恐ろしさ、どのような状態であるのかと私たちが注意すべことについて伝える	内容	フェイクニュースによって引き起こされる問題、フェイクニュースへの対策、どのような行動をとるべきか具体的な説明 話し手の意見もあった 自分の意見も述べていきたい

3

学習の調整、評価シート

工夫したこと（スピーチ前）		気付き→改善策（他の人のスピーチを聞いた後）
初めにメディアリテラシーの説明をし、そのあとに具体的な例(経験談)を提示した。 そのあとに自分の意見も述べた	構成	自分の文だと、いきなり経験談を入れてしまったので、もう少し導入を考えた方がよかったかもしれない。 経験談の後が少し良くわからない文章になっていた(何を伝えたいのかわからない)ので、もう少し文章の見直しをしっかりとした方がいいと思った。 どうやって?
総務省から「メディアリテラシーとは」引用 出所のわからないものではなく、政府のサイトから引用した	引用	引用した内容を言う前に、(自分の場合)「総務省の公式サイトから」などの文章を入れればよかったと思った。
メディアリテラシーとは 経験談 自身の意見	内容	ほかの人と比べると、内容が少し薄かったんじゃないかと感じた。 内容に伝えたいことが上手く書かれていなかった。

2

学習の調整、評価シート

工夫したこと（スピーチ前）		気付き→改善策（他の人のスピーチを聞いた後）
相手に伝わりやすいように話す事例をしっかりと取り上げてその説明も付けたりした。	構成	みんな述べる言葉を初めにしっかりと話していた。改善点として、引用をしてない分考察をうまく構成出来なかった。
	引用	はなさんの引用した所で、導入文が入っていた。このことから、引用することでその人の説得力が大きく感じることができた。聞き手に説得力を出すためにも引用をするのも一つの改善点だった。 ただの引用は改善ではない
伝えやすいようにみんながわかりやすいアプリの名前をだしたり、今までと現在の状況を比較して違いを分かりやすくして、内容を書いた。	内容	

1

＜授業研究２＞「翻案小説を書こう」（文学国語　書くこと）

１　研究の背景

「文学国語」における「書くこと」の指導では，「言語文化」で身に付けた力を発展させ，「読み手を意識した独創的な文章」を書くことが求められる。ここで，「読み手を意識した独創的な文章」の「独創」とは，情景や心情の描写を工夫することはもちろん，視点や構成を工夫することも含まれる。しかし，書くことに慣れていない生徒にとっては，一から構成を考えて物語を創作するということは心理的な負担が大きい。そこで，本単元では著名な寓話を翻案した，佐野洋子「ありときりぎりす」の分析から始め，他の物語の骨子を借用しながら視点や構成を工夫し，原作とは異なる寓意的な解釈ができる作品に書き換える活動を取り入れた。この他，「主体的・対話的で深い学び」となるように，第１次，第２次ではペアワークなどの活動を多く取り入れ，第３次では他者の作品を読ませて相互評価を行った上で自己評価を行った。

本実践の観点別評価では，「思考・判断・表現」の評価に生徒同士の相互評価を取り入れること，「思考・判断・表現」の評価と「主体的に学習に取り組む態度」の評価を同時に行うこと，の２点を試みた。また，「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては，生徒の振り返りアンケートを評価材料とした。振り返りアンケートでは，ＩＣＴを活用するほか，自由記述欄以外にもチェックボックス方式を併用し，評価時間短縮のための評価方法の簡素化を試みた。

２ 単元の目標

(1) 言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解することができる。〔知識及び技能〕(1)ア
(2) 人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(2)イ
(3) 読み手の関心が得られるよう，文章の構成や展開を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ書くこと(1)イ
(4) 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して，読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ書くこと(1)ウ
(5) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力，人間性等」

３ 指導と評価の計画

科目名	文学国語	学年類型	３年	単位数	４単位	話すこと 聞くこと	
単元名	翻案小説を書こう					書くこと	○
教材	佐野洋子「ありときりぎりす」					読むこと	

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。（(1)のア） 人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，考え方を豊かにする読書の	「書くこと」において，読み手の関心が得られるよう，文章の構成や展開を工夫している。（Ａ(1)イ，） 「書くこと」において，文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して，読み手を引き	童話を基に翻案小説を書くことを通して，語りの視点や構成を工夫し表現することを粘り強く行う中で，自らの学習を調整しようとしている。

意義と効用について理解を深めている。（(2)のイ）	付ける独創的な文章になるよう工夫している。（A(1)ウ）	

主たる言語活動					
有名な童話を主人公や視点を変えて書き換えることで，新しい物語にしよう					
時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価の方法
		知	思	態	
1	**翻案小説と原作を比較し，共通するテーマと異なる主張を読み取る。** ①佐野洋子による翻案「ありときりぎりす」を読む。原作と比較し，登場人物のイメージに違いがないか考える。 ②原作の「ありときりぎりす」と共通するテーマは何か考える。 ③翻案発表時の時代背景を日本史や現代社会の授業で学んだことと関連させながら想像する。翻案作品に現れた原作とは別の寓意や主張を読み取る。	○			・記述の点検（ワークシート①）
2	**童話を一つ選び，翻案小説を書く。** ④「うさぎとかめ」「嘘をつく子ども」「北風と太陽」の中から一つ選び，原作から読み取ることができる寓意を考える。 ⑤原作とは異なる見方で書き換えることができないか検討する。 ⑥主人公を書き換える，結末を書き足す，原作にはない第三者を登場させる，などの方法を使い，原作のあらすじを踏まえながら異なる寓意的解釈ができる文章になるように構成を工夫して各自で翻案する。		○	○	・記述の確認（ワークシート②） （提出作品）
3	**相互に評価し合う・振り返りアンケートに記入する。** ⑦生徒４～５人でグループをつくり，それぞれの作品から読み取った主題をワークシートに書き込む。 ⑧グループ内で投票し合い，各グループの優秀作品を選ぶ。 ⑨自分の作品の感想が記入されたワークシートを読み，作品の意図が伝わったか確認する。 ⑩振り返りアンケートに記入する。 ※残りの授業時間は，各グループの優秀作品を教室内で共有する。		◎	◎	・記述の分析（提出課題，ワークシート③，振り返りアンケート）
	⑪定期考査において，描写から心情を読み取る問いを出題（本文とは別作品）	◎			・定期考査

※重点項目の欄について，指導に生かす評価には「○」を，記録に残す評価には「◎」を付す。

ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現	原作とは異なる寓意を読み取ることができる独創的で魅力的な作品を書いている。	原作とは異なる寓意となるように作品を書いている。	原作をなぞって，描写を工夫して翻案小説を書いている。
主体的に学習に取り組む態度	自分なりに工夫して翻案小説に取り組み，また振り返りアンケートで，他の作品の工夫から，自己の作品を分析しようとしている。	工夫して翻案小説に取り組み，振り返りアンケートで，他の作品の工夫を指摘しようとしている。	作品を完成しようとしている。

４　学習活動の実際

第１次では，イソップ童話の「ありときりぎりす」を知っている生徒が思っていたよりも少なかったが，原典とのキャラクターイメージの違いをよく捉えていた。原作の寓意は多くの生徒が「勤勉は美徳である」という趣旨に類したものを読み取っていたが，翻案の寓意には「働くだけが全てではない」「利益だけでなく自分のやりたいことを追求すべき」など多少の違いがあった。翻案された時代背景を考え

る活動では，話し合いの場面で「過労死問題」を挙げる生徒もおり，感心の声が上がっていた。

第２次では，作品を作る前に翻案版の「ありときりぎりす」における工夫を教室で共有した。「原作とは異なる寓意が読み取れるように書き換える」という課題の理解に時間がかかる生徒や，思うようにアイデアが出せず苦しんでいる生徒が複数名見られた。アイデアメモを個人で作成した後にペアでの相談時間を設けることで，最初は戸惑っていた生徒も書き出すことができたが，最後まで課題内容を理解できないＣ評価の生徒が数名いた。ワークシート②を用いて紙面上で下書きを作成した後は，ＢＹＯＤ端末を用いて作品を仕上げた。授業時間内で書き上げられた生徒はほぼいなかったため，次時までにクラウド上に提出しておくように指示をした。提示した「うさぎとかめ」「嘘をつく子ども」「北風と太陽」以外に生徒が選んだ作品は，「桃太郎」「シンデレラ」「かさじぞう」などがあった。

最後の相互評価の場面では，真剣に他者の作品を読み，相談しながら優秀作品を選ぶ姿が見られた。各グループに生徒自身の作品を含まないことを優先して割り振ったが，課題作品の字数制限（300字～1000字）に差があったこともあり，評価する作品の量と質にグループで差が出てしまった。相互評価を記入したワークシート③を作者に返却して活動終了としたが，「思っていたより自分の寓意が伝わらなかった」「こんな風に読まれるとは思わなかった」という感想を述べる生徒もいた。残った時間はクラウドに自由にアクセスして作品を読むこととしたが，休み時間に友人の作品番号を聞いて読むなどする意欲的な生徒がいた。授業外の時間にも自由に作品を読めるようにできるという点においても，ＩＣＴを活用する利点を感じた。

５　評価の実際

本単元の「思考力・判断力・表現力」の評価では，教員による評価と生徒の相互評価を複合的に利用した。Ｂ評価とＣ評価の判断を教員が「異なる寓意的解釈ができるかどうか」で行い，Ｂ評価作品のうち，生徒の相互評価で優秀に選ばれた作品をＡ評価とした。ただし，「学習活動の実際」でも述べたように，優秀作品が競合したグループもあったため，全ての作品を読んだ後，教員が最優秀と選んだ１作品についてもＡ評価とした。このため，１クラス38名のうち，Ａ評価は10名となった。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価では，第３次に実施した振り返りアンケート（【資料１】）を利用した。「主体的に学習に取り組む態度」には，「①粘り強い取組を行おうとする側面」及び「②自らの学習を調整しようとする側面」の二つの側面があるが，それぞれを対応するアンケート項目を使用して評価した後，【資料２】の表に従い，最終的な「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行った。手順は２段階あるが，記

【資料１】アンケート項目

問１　自分の作品を振り返って（どちらか選択）
- ⒜　原作とは違う価値観を思いついて，読み手にそれが伝わる作品を書くことができた。
- ⒝　原作とは違う価値観を思いつくことができなかった，若しくは作品にするのが難しかった。

問２　「１」の項目について，「できた」とした人は，自分の工夫したポイントを書いてください。また，「できなかった」「難しかった」とした人は，どういった点が難しかったか，また他の人の作品を読んでどういう点ができればよかったか書いてください。

問３　違う価値観を書くために，自分の作品に取り入れた工夫を選んでください。（複数選択）
- ⒜　登場人物を分けた。
- ⒝　登場人物を対比させた。
- ⒞　原作の結末の先を書いた。
- ⒟　登場人物の心情をより細かく書いた。
- ⒠　原作にはない第三者を出した。
- ⒡　その他

問４　あなたが優秀作品に選んだ作品のよかった点・工夫が見られる点があれば，教えてください。

問５　今回「物語を書く」活動をしましたが，本授業の感想を書いてください。

【資料２】「主体的に学習に取り組む態度」の最終評価

独自の工夫をして作品を作成している ※⒡の「その他」に記述	B	A
取り入れた工夫が二つ以上である	B	B
取り入れた工夫が一つ以下である	C	B
①粘り強い取組を行おうとする側面（問３） ②自らの学習を調整しようとする側面（問２，状況に応じ問４，問５）	自身の改善点を記述できていない	自身の改善点を記述できている

述の有無やチェックボックスの入力個数などで評価できるよう単純化することで，複数教員が評価に当たる場合でも，極力個別の評価について相談する時間をつくらなくてもよいように工夫した。

また，課題の提出及びアンケートの集約にはＩＣＴを活用した。当日の授業を欠席した生徒にも授業内で時間を割くことなく指示することができ，時間や手間の削減につながった。

６　研究の成果と課題

⑴　「思考力・判断力・表現力」（書くこと）の評価について

本単元では，Ｂ評価とＣ評価については教員が評価をし，Ａ評価を生徒の相互評価に委ねる形で行った。一人でＡからＣまでの３段階の評価をつけるより評価の基準が少ないため，ほぼ迷うことがなく短時間で行うことができた。生徒作品には入力ミスと思われる誤字や脱字などは多少見られたが，今回は評価の対象としていないため，下線を引いて返却するのみにとどめた。

⑵　「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

アンケートで生徒が自己申告した項目数に基づいて評価をしたため，評価の簡略化及び時間短縮につながった。３年間継続的に指導をした上での感覚であり，詳細な検証をしたわけではないが，見当違いな申告をした生徒は少なかったように思われる。年間を通して全ての評価をこの形式にするわけにはいかないが，評価方法の簡略化に向けた一試案とすることはできたのではないかと思う。

翻案小説を書こう ①

組　　番　氏名

①イソップ童話の「アリときりぎりす」を（ 知っている ・ 知らない ）
②次の表の上段「原典のキャラクター・イメージ（印象）」を書き出してみる。

原典のキャラクター・イメージ	翻案のキャラクター・イメージ
あり ・真面目 ・計画性がある ・働き者 いい名 都会 きりぎりす ・今を楽しむのんき者 ・計画性なし ・歌がうまい ・楽しいことが好き	おれ ・働くことが嫌になった ・友達 ・優雅 おやじ・親 ・働き者 ・社長 きりぎりす ・好きだからこそ生きている ・夢に生きている ・夢 ・何も考えずにやりたいことをやっている

③翻案された「ありときりぎりす」を読み、下の表を埋める。

④登場人物の「変化」を読み取る。

⑤原典と翻案の主題（テーマ・何が書かれているか）を考え、それに対する主張（書き手が伝えたいこと、読み手に受け取ってほしいメッセージ）を考える。

テーマ	生き方	原典	これからのことを考えず、今のことだけしていたら いざ困ることがあっても助けてもらえないので 備えることが大切。（ありの生き方が良い）
		翻案	これから備えて今を楽しむだけでなく今の充実している時間も 大切にすることも大切。（きりぎりすの生き方が良い）

【ノート・メモ】

1970～1980年代 ビジネス・効率化 ← 土ふまえ ビジネスが

翻案小説を書こう ②

組　番　氏名

⑥視点を変えて「翻案」する

昔話（イソップ童話、グリム童話、日本昔話、など）を、視点を変えて「価値観を転倒」させてみましょう。（裏の中から一つ作品を選ぶか、自分で探す）

条件　(1) 300字～1000字とする。

(2) あらすじはある程度押さえつつ、原典とは「別のメッセージ」を込める。

※主人公を変える、後日談を付け加える、など。

(3) どこかで主人公の心情を表し、表現を工夫する。

※単純に「うれしい」「かなしい」だけでなく、比喩を使う、風景描写とリンクさせる、などの表現を考えてみる。

【評価の視点】

(1)原作とは異なる主張を読み取ることができること。

(2)独創的で魅力的な作品を書くことができること。

（相互に作品を読み、投票してもらいます）

＋α　主人公の心情描写に工夫がみられること。

⑦アイデアメモ

選んだ昔話（ウサギとカメ　　）主人公にするのは（カメ　　）

原典が伝えたいこと

地道にコツコツ頑張った者が得をする

自分が表現したいこと

勝ち負けは、損得だけで動くべきではない

【翻案のためのヒント】

、主人公をかえる

、主観的に書いてみる

対比させる

、結末のその先を書く

第三者を出す

無意味

無意味

どちらも走らない

かめがゴール

助けてあってゴール

うさぎがかめのまずいところを助ける

動けなくなる

助ける

ゴールも遠

⑧表現を考える

表現したい情景・心情

例　おれが見たこともないような風景が、どこかにあるような気にさせた。
心臓がしぼりあげられるように、せつなくなった。
獲物を引きずったときの心臓の痛さと、まるでちがう痛みだった。
おやじは見あげたありだ。／おやじはいつだって、見あげたありだった。

一気に魚の気が引いた。

ゴールまでよりも もっともっと長い時間を、うさぎを連れて走った

※これまでの小説での描写を思い出してみましょう。

⑨下書き

【原作の展開】

うさぎ、かめ

かけっこをする

【翻案】

かけっこをする、うさぎ（カメに負けるわけない）

かめ（バカにされて嫌な気分、絶対に勝つ）

うさぎ休憩する（寝る）

かめがうさぎのところに近いつく　転ばせてやろうと企む

転ばせる　うさぎ大けが

かめ後悔

自分の行動を反省し、うさぎを助ける

ゴールには向かわず、うさぎを助けるために

家が病院へ行く

かめがゴール

↓作品が書けたら、スマートフォンかタブレットに入力してロイロノートで提出する。

次回は相互評価をするため、この時間で書けなかった人は次の時間までに提出。

①

1　うさぎとかめ

ある日、うさぎが僕に競走をしようと言ってきた。

「お前はノロマだ。俺に勝てるわけがない。」本当に悔しかった。絶対にこいつに勝って、こいつの悔しそうな顔を見たいと思った。それを見ていた りすが冗談らしく僕にこう言った。「うさぎをケガさせてやればいいじゃないか」そんなことはしない、と僕は笑った。りすのよーいドンの合図で僕達は走り始めた。僕は鉄の味がするほど一生懸命走った。でも、どれだけ頑張って足を動かしてもうさぎには追いつけなかった。悔しくて涙が出そうだった。

コースの中腹辺りにさしかかった頃、その先の木の下でうさぎが寝ているのが目に入った。有り得ない。はらわたが煮えくり返るような思いだった。いくら僕が遅いからといって、あいつが速いからといって、正々堂々と勝負するのが筋だろう。するとその時、ふとりすの言葉が頭をよぎった。「うさぎをケガさせてやればいいじゃないか」あのとき僕は冗談だと思って笑っていたけれど、本当にそうしてやろうと思った。それほどあいつが憎かった。うさぎが起きて、走り始めるあたりに僕がしゃがんでいればあいつは僕につまずいて転ぶだろう。そうしたらあいつが痛がっているうちに僕がゴールしてやる。僕はうさぎが起きるのをじっと待っていた。

うさぎが起きた。ゴールにまだ僕が居ないのを確認してから、あいつは鼻歌を歌いながら走り始めた。

ドンッ

あいつは狙い通りつまずいた。いい気味だ。これで僕が先にゴールできる。

うさぎはつまずいて倒れてから、しばらく動かなかった。一気に血の気が引いた。僕はなんてことをしてしまったんだ。僕はただの勝ち負けに気を取られていたばかりに、してはいけないことをしてしまった。正々堂々と勝負していないのは僕も同じじゃないか。

僕は彼に駆け寄り、謝罪をした。幸い彼のケガは重い捻挫で済んだ。僕はゴールとは反対の方角へ、ゴールまでよりもずっと長い距離を彼を連れて下り始めた。

翻案小説を書こう ③

⑩クラスメートの作品を読み、作者が書きたかった主題はなにか考えよう
※タブレットの中から指定された作品を読み、読み取った主題とよかったところを書く。

作品番号（ ① ）について

出席番号-氏名	読み取った主題・よかったところ
	主題　ズルをしてまで勝つべきではない。 読みやすかった。比喩表現がおもしろかった。
	主題　憎しみを生むような言動は避けるべきということ。 言い回しが独特で面白かった。 結末も良い意味で予想外だった。
	主題　勝ち負けよりも大切な何か。 「鉄の味がするほど」など力メの必死さが読んでいて伝わるところが良かった。結末もゴールではなく反対の方角」という意外さが良さをひきだしました!!
	主題　何事も正々堂々やるべき りすを登場させることで状況がさらに分かりやすくなった。鉄の味、鼻歌などが想像しやすい。

⑪自分の作品番号の感想が帰ってきたら、自分の意図が伝わっているか確認しよう。
最後にロイロノートの「振り返りアンケート」に解答すること。（資料箱にあります）

＜授業研究３＞自分の考えを意見文にまとめよう（論理国語　読むこと）

１　研究の背景

「論理国語」における「読むこと」の指導では，「根拠や論拠を批判的に検討し」たり，「文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深め」たりするなどの指導事項が示されている。本研究では，それらを踏まえ，「自分の考えを深める」ことを目標に，教科書の内容を題材にして，タブレット端末等を用いてさまざまな資料を調べ，自分の考えを意見文にまとめるという実践を行った。

また，生徒が書いた意見文をパフォーマンス課題と捉え，自分の意見が深まったかどうかを「読むこと」の評価で判断するとともに，調べ学習の取組と振り返りから「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行った。評価にはＩＣＴを活用し，調べ学習を「調べた数」で評価したり，アンケート機能を用いて提出させ集計したりすることで，より客観的かつ簡易的な評価ができるかを試みた。

２　単元の目標

(1) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕（1）ウ

(2) 人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂ（1）カ

(3) 言語がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力，人間性等」

３　指導と評価の計画

科目名	論理国語	学年類型	３年	単位数	２単位	話すこと 聞くこと	
単元名	本文から考えられる課題に対して，自分の考えを意見文にまとめよう					書くこと	
教材	阿部潔「スポーツとナショナリズム」					読むこと	○

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。（(1)ウ）	「読むこと」において，人間，社会，自然などについて，文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて，新たな観点から自分の考えを深めている。（Ｂ読むこと(1)カ）	筆者の主張や本文の内容を理解し，与えられた新たな課題に対して自分の考えを意見文にまとめる活動を通して，積極的にさまざまな資料を調べたり，自分の考えを広げたり深めたりしながら自らの学習を調整しようとしている。

主たる言語活動
本文の内容から考えられる問題についてさまざまな資料を調べ，自分の考えを意見文にまとめる活動

時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	

1	**本文の主題（「ナショナリズム」）について理解する。** ①本文を第４段落まで音読する。 ②国語辞典等を用いて，「ナショナリズム」とは何か理解する。 ③「ナショナリズム」について辞書の意味と本文の表現を関連付けて理解する。 ④現代のナショナリズムの特徴を把握する。	○			・記述の点検 （ワークシートⅠ）
2	**表を用いて現在と過去のナショナリズムを比較する** ⑤本文を第５～６段落まで音読する。 ⑥本文にある２種類のナショナリズムを，表を用いて整理する。 ⑦整理された２種類のナショナリズムを比較して，その相違点を理解する。 ⑧筆者が取り上げた問題点を理解する。	○			・記述の点検 （ワークシートⅠ）
3	**本文中の語の意味の類似性を理解して，内容を理解する** ⑨本文を第７段落から第９段落まで音読する。 ⑩「文明化」と「スポーツ」の共通点を整理する。 ⑪さらに展開（応用）をして，「文明化」と「スポーツを介したナショナリズム」の共通点を理解する。	○			・記述の確認 （ワークシートⅡ）
4	**現代のナショナリズムの問題と筆者の主張（必要な対応）を理解する** ⑫本文を第 10 段落から最後まで音読する。 ⑬現代のナショナリズムが抱える課題とその原因を理解する。 ⑭筆者の主張（現代に生きる我々に必要な対応）を理解する。		○		・記述の確認 （ワークシートⅡ）
5	**本文における現代のナショナリズムの問題について意見文を書く** ⑮今日の目標を確認し，意見文の書き方を知る。 ⑯与えられた問題に対して自分の考えをまとめる。 ⑰自分の意見を深めるため，タブレット端末等でさまざまな情報を調べて，他者の意見を参考にしながら自分の意見を明確にする。 ⑱意見文を完成させる。		◎	◎	・記述の分析 （意見文）
6	**相互評価を通じて，自分の意見の参考になる他者の意見をまとめる** ⑲生徒相互で意見文を読み合う。 ⑳相互評価表から互いに本文の内容（「現代のナショナリズム」の意味）を理解しており，自分の考えが深められた意見文になっているか確認する。 ㉑相互評価を通じて自分の意見の参考になる意見をまとめる。 ㉒授業の振り返りを行う。		◎	◎	・記述の分析 （意見のまとめ及び振り返り）
	㉓定期考査	◎	◎		・定期考査

※重点項目の欄について，指導に生かす評価には「○」を，記録に残す評価には「◎」を付す。

ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現	「ナショナリズム」の意味を正確に理解して，意見文において使いこなしており，さらに，課題に対してさまざまな資料から得たさまざまな解釈や価値観などを本文の内容と結び付けて，自分の意見を深めている。	「ナショナリズム」の意味を理解しており，また，課題に対してさまざまな資料から得た考え方と本文の内容を結び付けて自分の意見をまとめている。	「ナショナリズム」の意味を理解しており，課題に対する資料から得た考え方を参考にして意見をまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	①調べ学習時に，四つ以上のサイトで自分の意見の論拠となる必要な知識や物事の捉え方を得ようと努めた。【粘り強く取り組もうとする側面】 ②相互評価を通じて，他者の意見の参考になる点を積極的に見つけ，自分の考えを深めようとした。【自らの学習を調整しようとする側面】	①調べ学習時に，二つ以上のサイトから自分の意見の論拠となるような必要な知識等を得ようと努めた。 ②相互評価を通じて，他者の意見の中から自分の意見の参考になる点を積極的に見つけようと努めた。	①調べ学習時に，一つ以上のサイトから自分の意見の参考となるような必要な知識等を得ようと努めた。 ②相互評価を通じて，他者の意見の中から自分の意見の参考になる点を見つけようと努めた。

４　学習活動の実際

生徒にとって意見文の課題設定がやや難しかったようで，自分の意見を考えるという段階で困った生徒もいた。このような生徒には随時助言をしながら授業を進めていった。ただ，自分で課題にしっかりと取り組めた生徒もおり，平易な課題の方が上手くいったということでもないと思う。各校の生徒の力や実情に合わせて，言語活動に至る過程をしっかりと考えておくことが重要だろう。

また，調べ学習でインターネットを活用したことはあるが，タブレット端末を使って振り返りを提出させるようなＩＣＴの活用は初めてだったため,最初のうちは生徒も戸惑いながらの授業であった。しかし，一度使い方を理解すると生徒の方も上手くタブレット端末を活用して進めることができた。教員も生徒も慣れる必要はあるが，慣れてしまえば授業の円滑な展開は期待できるように感じた。

５　評価の実際

(1)　「読むこと」の評価について

今回の研究では，「読むこと」の観点を「意見文を書く」というパフォーマンス課題で評価した。そもそも「書くこと」ではなく「読むこと」の能力の育成を授業のねらいとして考え，最終的に言語活動として意見文を書くことによって自分の考えを深めるという目標につなげていくことを意識したため，大きな問題はなかったかと思う。評価に要する時間もそれほどかからなかった。しかし，欠席者や課題の趣旨を正しく捉えられなかった者がいたため，Ｃ評価の割合が高くなってしまった。

(2)　「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

粘り強い取組を行おうとする側面については，調べたサイトのＵＲＬなどをタブレット端末でスタディサプリ（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、以下「スタディサプリ」と表記）のアンケート機能を用いて提出させ，生徒が意見を深めるために調べたサイトの個数で評価した。提出後は調べたサイト数をエクセルファイルにそのまま集約して評価したので非常に平易に評価すること

ができた。

また，自らの学習を調整しようとする側面についてもタブレット端末でスタディサプリのアンケート機能を用いて提出させた。エクセルファイルで一覧になった状態で振り返りを読むことができたため，非常に容易に評価できた印象である。

６　研究の成果と課題

⑴　「パフォーマンス課題」について

実際の取組から考えると，「どのような」パフォーマンス課題なのかよりも，「どのような過程で」「どのような指示で」パフォーマンス課題を行うかの方が重要で，それによって同じパフォーマンス課題でもその効果は大きく異なると感じた。そう考えると，今回の取組をより効果的にしていくならば，例えば，この単元より前に「書くこと」の観点で「意見文を書く」パフォーマンス課題に取り組み，意見文を書く能力を身に付けている状態で今回のような課題に取り組むとよいだろう。授業の実践を振り返る中で，段階的な能力の積み上げを視野に入れるべきだったと感じる。

⑵　「読むこと」の評価について

Ｂ評価の基準をできるだけ客観的な判断ができるようにすることが肝要だと思われる。Ｂ評価の基準をしっかりと定めれば，その枠におさまらないものがおのずからＡやＣ評価になる。今回，実際に評価をする際に悩んだのはこの点である。目標を生徒に伝えるという側面から考えても，評価をする際の手間暇を考えても，明確で客観的な指標が必要だと感じた。また，例えば一つの観点の中に幾つかの評価のポイントがある場合なら，「三つのポイントを全て満たしていればＢ評価とする」「三つのうち一つでもポイントを満たしていればＢ評価とする」というように，その評価のポイントをどのように評価の判断に反映させるのかについても，あらかじめ設定する必要があるだろう。

⑶　「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

今回，「主体的に学習に取り組む態度」の粘り強く取り組もうとする側面を調べたサイトの個数で評価した。生徒の授業の取組状況も踏まえて考えれば，適切な評価ができたと感じる。また，観点別評価によって評価項目が増加したことを考えると，「適切かつ簡易な」評価方法が求められる。そういった点で評価におけるＩＣＴ活用を含めて，一つの試みができたのはよかったと思う。一方で，自らの学習を調整しようとする側面については，生徒に目的・目標に沿ったより適切な振り返りをさせるべきだったという反省があった。今回の研究では細かい振り返りの指示をしなかったため，単元のねらいと外れている振り返りが多数出てしまった。単元の目標を設定し，その目標に対してどのように授業展開をして，どのような言語活動を行うのかを決定することを考えると，その授業のねらいに絞った振り返りをさせることが最も学習効果があると考えられる。さらに，ルーブリックにおいても，どのような振り返りを期待しているのか，あるいは，何を評価するのかが分かる表記にすることで，評価する側も評価しやすく，評価される側も適切な振り返りをすることができるだろう。

⑷　「振り返り」について

今回の研究において，パフォーマンス課題を取り組んだ後に振り返りをさせて，自分ができたことやまだ足りないことに加えて，これからの学習の展望についても言語化させた。この振り返りを他の幾つかの単元でも行うことで，生徒の中に自己反省と改善をする思考をもつ者が増えてきたように感じる。私自身もややもすると「主体的に学習に取り組む態度」の評価のために振り返りをさせるような意識になってしまいがちだが，「主体的に学習に取り組む態度」を育むことで，生徒が自分でＰＤＣＡサイクルを回せるようになり，その後の学習や生活がよりよいものになるというグランドデザイ

ンを教員が意識することが肝要である。

R４ 第３学年 授業プリント③「ペポーツとナショナリズム」

課題　次の質問について自分自身の意見を書く

目標　本文の内容とその他の観点や情報を結び付けて、自分の考えを深める

質問　あなたが考える、よりよいペポーツにおけるナショナリズムの在り方

ルーブリック

観　点	A	B	C
思考・判断・表現	「ナショナリズム」の意味を正確に理解して、意見文において使いこなしており、さらに、課題に対してさまざまな資料から価値観などを本文の内容や解釈と結び付けて、自分の意見を深めている。	「ナショナリズム」の意味を理解しており、また、課題に対してさまざまな資料から得た考え方と本文の内容を結び付けて考えている。	「ナショナリズム」の意味を理解しており、課題に対する資料から得た考え方を参考に自分の意見をまとめている。
主体的に学習に取り組む態度	①調べ学習時に、四つ以上のサイトで自分の意見の論拠となる必要な知識や物事の捉え方を得ようと努めた。 ②相互評価を通じて、他者の意見の中から自分の意見の参考になる点を積極的に見つけ、自分の考えを深めようとした。	①調べ学習時に、二つ以上のサイトから自分の意見の論拠となるような必要な知識等を得ようと努めた。 ②相互評価を通じて、他者の意見の中から自分の意見の参考になる点を積極的に見つけようと努めた。	①調べ学習時に、一つ以上のサイトから自分の意見の参考となる必要な知識等を得ようと努めた。 ②相互評価を通じて、他者の意見の中から自分の意見の参考になる点を見つけようと努めた。

●意見文の書き方の例（構成）

①自分の意見を述べる
　Ex)「私は～～について、・・・(こうあるべきだ・のがよい)と思います。」

②自分の意見の根拠を説明する
　Ex)「それは、～～を考えると分かりやすいと思います。例えば、・・・」
　　「それは、・・・という事実があるからです。」

③もう一度、自分の意見を述べる
　Ex)「以上のことから、私は～～について、・・・(こうあるべきだ・のがよい)と思います。」

（　　）組（　　）番　名前（　　）

①まずは、自分の考えを書いてみよう（調べない・教科書を見るのはＯＫ）

②インターネットでさまざまな情報（意見のヒントや参考になるもの）を調べよう

(Ａ)調べるときのキーワード

(Ｂ)自分の意見の参考になった情報

(Ｃ)自分の意見の根拠の参考になった情報

★(Ｂ)と(Ｃ)については、「スタディサプリ」のアンケートにある、『現代文Ｂ「スポーツとナショナリズム」の調べ学習報告』に書いて提出とします。

★ルーブリックにあるように、調べた内容に加えて、「調べた数」も重要なので、『①～、②～』のように調べた内容の数が分かるように書いてください。

★調べたサイトのＵＲＬも書いておいてください。

R４ 第３学年 授業プロセス④「ペットショップのミナミイズム」

③調べた内容を踏まえて意見文を書いてみよう

④周りの人と意見文を読み合って評価しよう

【やり方】

●周りの人とお互いの意見文を読み合い、裏面にある枠に「よい点」と「改善点」を書いてもらう

●「改善点」については、「（既によいけど）こうするともっとよくなる」という点を書いてもよい

【評価のポイント】　※ 表面の「ルーブリック」を参考にする。

○「ナショナリズム」の意味を正確に理解して、意見文において使いこなしているかどうか。

○課題に対してさまざまな資料から得たさまざまな解釈や価値観などを本文の内容と結び付けて、自分の意見を深めた意見文となっているか。

●周りの人に意見文を読んでもらって、「よい点」と「改善点」を書いてもらおう

【名前】	【よい点】
	【改善点】

【名前】	【よい点】
	【改善点】

【名前】	【よい点】
	【改善点】

【名前】	【よい点】
	【改善点】

⑤周りの人の意見を読んで、自分にはなかった考えや新しい捉え方の参考になった考えを書こう

（Ex）・「この意見のこの点が、私はいいと思いました。」など

⑥振り返り・学べたこと

★⑤と⑥についても、「スタディサプリ」のアンケートにある、『現代文B「スポーツとナショナリズム」の振り返り等報告』に書いて提出とします。

★ルーブリックにあるように、調べた内容や周りの人の意見から「自分の意見を深められたかどうかを中心に、学べたことを振り返りましょう。

＜考査研究１＞話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語　話すこと・聞くこと）

１　研究の背景

「現代の国語」は，「話すこと・聞くこと」の配当時間が多く，重視されているが，「読むこと」「書くこと」に比べ，実践や評価の方法の蓄積が少ない。しかしながら，「現代の国語」の「話すこと・聞くこと」の領域においても，指導と評価を適切に行うため，パフォーマンス課題と併せて考査問題の特性も最大限生かし，授業内容の充実を図っていく必要がある。「思考・判断・表現」を考査で評価し，かつ「評価疲れ」を軽減するために，単元の目標に沿った考査問題を作成しようと試みた。

２　指導目標

(1) 考査で測りたい力

自分の立場や考えを明確にした上で，論点を共有しながら，相手の反応に応じて話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する力

- 自分の考えが的確に伝わるよう，自分の立場や考えを明確にするとともに，相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど，話の構成や展開を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ(1)イ
- 論点を共有し，考えを広げたり深めたりしながら，話合いの目的，種類，状況に応じて，表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ(1)オ

(2) 教材

杉田敦　「政治的思考」

宇野重規「未来をはじめる―『人と一緒にいること』の政治学」

(3) 考査までの流れ（授業展開）

①　杉田敦「政治的思考」の本文の趣旨を把握する。

②　宇野重規「未来をはじめる―『人と一緒にいること』の政治学」を読み，話し合いにおける参加者の立場や役割，進行に当たっての工夫について理解する。

③　話し合いに参加したつもりで，とある発言に反論する（パフォーマンス課題）。

④　話し合いの進行役の立場で，どのように表現や進行を工夫するかを答える（考査で評価）。

３　実施した考査問題と採点基準

『政治的思考』の本文を示した上で，日常生活を想定した会話の資料を与え，三つの問いを設定した。会話文は，『未来をはじめる―「人と一緒にいること」の政治学』を参考にして作成した。

問(1)は，自分の立場や考えを明確にすることを問う問題である。ここでの「自分の立場」とは，話し合いにおける司会進行役の立場のことで，「考え」の道筋は，『政治的思考』の趣旨に沿ったものでなければならない。

問(2)は，問(1)で問われた内容を踏まえ，自分の立場や考えを明確にした上で，表現を工夫することを問う問題である。周囲に遠慮して意見を言えないでいる「Ｄさん」に対し，「差異を大切にして」「一人一人意見を聞く」という『政治的思考』の本文の趣旨に沿い，「Ｄさん」が意見を言いやすいよう配慮した表現のものが，最もよい評価となる。

問(3)は，論点を共有しながら，話し合いの状況に応じて，進行や結論の出し方を工夫することを問

う問題である。問(2)とは異なり，結論まで出す必要がある。問(3)では，採点のポイントを二つに分け，それぞれ基準を設けて評価した。「話し合いの過程」の項目では，『政治的思考』の「いろいろな人の動き」という内容を踏まえて話し合いを進めているかを評価する。「話し合いのまとめ方」の項目では，これまでに出た意見から論点を共有し，『政治的思考』の本文の趣旨に沿って，全員の意見の調整を図って結論を出しているかを評価する。問(2)，(3)の採点基準の詳細は以下のとおりである。

問(2) 自分の立場や考えを明確にした上で，相手の反応を見ながら表現を工夫することを問う問題

A評価	B評価	C評価
遠慮気味に発言したDさんの真意をくみ取る内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え，かつ進行役として，Dさんの反応に配慮をしながら表現を工夫したもの	Dさんに対して真意を聞こうとした内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に一部沿って考え，かつ進行役として，Dさんの反応を見ながら表現したもの	Dさんに対する発言である。 ※ 進行役として，Dさんとの会話をすることはできたもの

問(3) 自分の立場や考えを明確にした上で，論点を共有しながら，話し合いの状況に応じて，進行や結論の出し方を工夫することを問う問題

	A評価	B評価	C評価
話し合いの過程を評価	Bさんが意見を変えたこととその経緯を踏まえた内容である。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え，状況に応じて進行の仕方を工夫したもの	Bさんが意見を変えたことを踏まえた内容である。 ※状況の変化は理解して，話し合いを進行したもの	話し合いを継続している。 ※進行役としての立場は押さえることができたもの
	A評価	B評価	C評価
話し合いのまとめ方を評価	Dさんを含め，全員が納得するよう意見を「調整」している。 ※『政治的思考』本文の趣旨に沿って考え，論点（野菜やあっさりしたものも一定量食べられるところ）を共有しつつ，意見の調整を図るなど，結論の出し方を工夫したもの	ほとんどの人が納得できる結論になっている。 ※論点の共有と意見の調整をある程度までは図りつつ，結論を出したもの	「取りやめる」以外の結論が記されている。 ※進行役として結論に向かうことはできたもの

A・B・C評価にはそれぞれ配点がある。本研究では，いずれの問いにおいても，C評価は０点としたが，各校の実情に合わせて配点するとよい。

４　生徒の取組状況と採点の実態

問(1)は客観問題ということもあり，ほとんどの生徒が解答をしていた。問(2)では，無解答は13％で，B評価以上の生徒が77％おり，記述をした生徒はおおむね得点に結びついていた。一方，問(3)では，無解答は31％と増え，書きかけの答案も散見された。記述はしたが，二つの採点項目でどちらもC評価だった６％と合わせると，37％の生徒が得点をしていない状況であった。

採点については，これまでに行ってきた読み取りの記述問題と比べても，採点にかかった時間に大きな差はなく，担当者同士の採点基準のすり合わせに苦労した印象もなかった。要因として挙げられるのは，まず，授業内容も踏まえながら，単元全体における「考査で測りたい力」を念頭に置いて作問したことである。次に，作問と同時に生徒の解答を予測しながら採点基準を定めたことである。こ

れらによって，ある程度明確に採点基準の境界を設けることができ，解答の方向性を絞るための条件を設問文に追加することもできた。考査実施後には，採点者で答案を一緒に見ながら採点基準について再度共有できたことも，効率化につながったと考えている。

５　研究の成果と課題

(1) 成果

「話すこと・聞くこと」の「思考・判断・表現」を見取るにあたって，パフォーマンス活動に適したものと，そうでないものがある。例えば，今回の授業内容がそうであったように，全員が同じ進行役でパフォーマンスすることが困難である場合や，一人一人の発表やワークシート等の成果物での評価も難しい場合については，考査で評価した方が効果的かつ合理的とも言える。そのことに，作問と評価を通して今回気付けたことは，成果と言える。単元の目標を常に意識し，見取りたい力を，パフォーマンス活動で評価するのか考査で評価するのかを見極め，適切に指導と評価を計画していく必要がある。

(2) 課題

ア　考査実施前

採点と違い，作問には時間がかかった。指導書に掲載してある参考文献や資料からヒントを得るなど，手持ちの材料を効率よく使って作問し，時間短縮する必要性を感じた。

イ　考査実施後

問(1)(2)は前述したとおり，思考の流れをくんで段階的に答えていくことを想定して作問したが，生徒の正答率を見ると，想定とは異なる結果が出た。問(2)でＡ・Ｂ評価の生徒が 77%であったのに対し，問(1)では正答率は 47%にとどまった。問(1)で正答できなかったにもかかわらず，問(2)では一定の理解を示した生徒がいたことになる。さまざまな要因が考えられるが，設問文に誤解を生む表現がないかどうか，ねらいが伝わる表現であるか，よく精査しなければならない。今回の考査では，問(1)の設問文「Ｄさんの後に～」を，「Ｄさんに対して～」とすれば，ねらいがより明確に伝わったのではないかと考えた。

また，段階的に難易度を高めたとはいえ，特に問(3)で，無解答または書きかけの生徒も少なからずいたことから，生徒の解答時間の予測についても課題が残った。制限時間の中で，適切に「思考・判断・表現」を見取ることができるよう，各設問の重さと分量を考慮して考査問題を仕上げる必要がある。

話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語　話すこと・聞くこと）

問十二　次に挙げる資料は、仲のよい友達同士５人で、夕飯を食べに行こうとしたときの会話である。あなたが他の４人に、何が食べたいかを聞いたところ、次のようになった。これを見て、『政治的思考』の趣旨に沿って考え、後の(1)～(3)の問いに答えよ。

資料

あなた：みんな、何が食べたい？　私は肉が食べたいなあ。
Ａさん：私もお肉がいいー！　私は焼肉食べたい！
Ｂさん：私も焼肉がいい！。
Ｃさん：んー、私は今、和食の気分だなあ。
Ｄさん：うーん……ええと……何でもいいよ。私はみんなに合わせるよ。

(1)　あなたがこの話し合いを進行するに当たって、Ｄさんの後に発言をする場合、まずは本文のどの内容を根拠に話すべきか。次の三つから一つ選び、記号で答えよ。

自分の立場や考えを明確にすることを問う問題

ア　利害関係を異にする意見の調整をすること
イ　人との距離感を大事に各々の意見を聞くこと
ウ　すっきりした結論の出ない不透明さがあること

(2)　Ｄさんへの言葉がけの内容はどのようなものになるか、記せ。（実際のセリフでも、内容をまとめたものでもよいが、言葉がけの意図が分かるように記すこと）

自分の立場や考えを明確にした上で、相手の反応を見ながら表現を工夫することを問う問題

(3)　この会話の後、Ｄさんの反応を見たＢさんが、「やっぱり野菜をたくさん食べたい」と言い出した。この後、何を食べに行くかを決定したが、決定にいたる過程も含めて、どのような結果になったかを説明せよ。その際、誰に、どのような意図で、どのような内容の言葉がけをしたかが分かるように説明すること。ただし、所持金の多寡は行き先の決定に影響しないものとし、「取りやめる」という結果にもならないものとする。

自分の立場や考えを明確にした上で、論点を共有しながら、話し合いの状況に応じて、進行や結論の出し方を工夫することを問う問題

話し合いの仕方や結論の出し方を工夫しよう（現代の国語　話すこと・聞くこと）

(2)

Ａ評価

・みなが同じではないので、差異を大切にするため、苦手なものはないのか、みなとちがうものでも伝えてもよい、ということを言う。

・みんなに合わせるのも一つの意見だけど、我慢してないかな？　みんながみんな同じ意見になるとは限らないし、一人一人違ってあたり前だよ。Ｄさんがどんな意見だったとしても私たちはそれを尊重するよ。

Ｂ評価

・焼肉と和食だったらどっちがいい？

・Ｄさん、もし今食べるとしたら何がたべたい？

Ｃ評価

・じゃあ、ショッピングセンターのフードコートで食べるのはどうかな？フードコートだったらお肉系の食べ物も和食もあるし、Ｄさんはそこについてから選べるからいいんじゃないかな。

・お肉食べると元気出るよ！！　どう！？

(3)　※　実線は採点項目１（過程）、点線は採点項目２（まとめ）の判断要素

Ａ評価

・Ｄさんが「味の濃い物の気分ではない」素振りを見せたことに対し、Ｂさんが妥協して「野菜が食べたい」と言った。自分は肉も野菜も和食も食べたかったので、バイキングはどうかと考えた。そこでまずＡさんに焼肉から肉に妥協してもらうため、「ただの肉でもいいか」とたずねたところＯＫをもらえた。（一般的にバイキングで和食や野菜はあっても焼肉はないと考えた。）そして全体に、全員が希望のものを食べられるバイキングはどうかと提案したところ、全員が賛成したので、バイキングに決定した。【採点項目１・２ともにＡ評価】

Ｂ評価

・「お肉を食べたい人と、野菜を食べたい人と、和食を食べたい人がいるね。」と、全体にまとめの意見を言う。
Ａさんに「お肉はお肉でも焼肉じゃなくてもいい。」と許可を取り、全体に「トンカツ屋にしない？お肉もあるし、和食だし、定食だから野菜をたくさん使ったメニューもあるよ。」と意見をきき、トンカツを食べに行った。【採点項目１・２ともにＢ評価】

Ｃ評価

・じゃもう和食派と焼肉派に分かれて代表者決めて、ジャンケンとかにする？（ジャンケンして焼肉派が勝つ）今日は、焼肉にしよ。次行く時は、Ｂ・Ｃ・Ｄさんの意見を優先してご飯行こうよ。【採点項目１・２ともにＣ評価】

＜考査研究２＞表現の仕方を工夫しよう（言語文化　書くこと）

１　研究の背景

「書くこと」を問う考査問題としてまず思い浮かぶのは「枕草子に倣って随筆を書きなさい」という類のものであろう。しかし，その問いは適切とは言えないのではないか。そう感じられる理由は２点ある。１点目は，何を正解にしたらよいのか，表現力を問うときに不正解があるのか，複数の採点者が同じ基準で採点できるか，採点に時間がかかるのではないかという「採点上の不安」であり，２点目は，授業で実施したパフォーマンス課題と同じことを考査で出題していいのかという「漠然とした違和感」である。

「書くこと」における「思考・判断・表現」をパフォーマンス課題だけで測るには，膨大な労力を要する。考査問題によって適切に測ることができれば，評価にかかる手間，時間を小さくできるかもしれない。採点の困難さや評価疲れを軽減でき，かつパフォーマンス課題とは違ったかたちで「思考・判断・表現」を評価することができる考査問題の作成を試みた。

２　指導目標

(1) 考査で測りたい力

読み手に効果的に伝わるよう，表現の仕方を工夫する力

自分の体験や思いが効果的に伝わるよう，文章の種類，構成，展開，描写，語句などの表現の仕方を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕Ａ(1)イ

(2) 教材

「枕草子」(「はしたなきもの」他)

(3) 授業展開

１次　「枕草子」(「はしたなきもの」) の内容を読み取る。

２次　「枕草子」(「はしたなきもの」) の表現上の工夫を考える。

３次　「枕草子」(「はしたなきもの」) に倣って随筆を書く（言語活動)。

３　実施した考査問題の作成と採点基準

(1) 作問に対する「違和感」,「不安」の解消

作問に対する「漠然とした違和感」を解消するため，パフォーマンス課題と考査問題の違いの再確認を通して，両者を区別する考え方を見いだした。

パフォーマンス課題は，作品やプレゼンテーションなどの実技・実演に重きを置くものである。国語科においては，作品を書いたり，スピーチをしたり，小説の一場面を演劇にしたり，というようなものがイメージされる。これらは，オリジナリティも評価の対象になりえる。一方，考査問題は，ある程度限定された正解があり，オリジナルの内容でない部分を問う。つまり，実技・実演の出来栄えではなく，「何を考えたか」「どう工夫したか」という側面を見取ることが考査問題の目的となる。これは，考査問題をパフォーマンス課題と区別する考え方の一つと言えるだろう。

「採点上の不安」は，正解を一つに絞ることによって解消を試みた。「どう工夫したのか」という側面を問いつつも，正解は一つに絞ることができる問題である。ただし，知識を問う問題になってはならない。

以上を踏まえて，本研究においては，「優れた作品から学んだ表現上の工夫」＝「限定された解答」と考え，枕草子に倣って随筆を書くときの工夫を問う問題を作成した。

(2) 実施した考査問題と採点基準

実施した考査問題は＜資料＞のとおりである。

問一では，表現したいことを明確にする力を問う。正解に複数の可能性が生じないような「Ａさんの作品」を作った。採点基準は次のように設定した。なお，実際にはＡＢＣ評価に具体的な配点がある（問二も同じ）。

Ａ評価：本文の内容に沿った的確な語句を述べており，かつ10字程度の短い表現をしている。
Ｂ評価：本文の内容にある程度沿った語句を述べている（字数不問）。
Ｃ評価：本文の一部に当てはまる語句を述べている（字数不問）。

採点基準には，「おおむね」等の曖昧な表現を使わず，解答の語句が「本文（全体）に当てはまる」か「本文の一部に当てはまる」か「10字程度の表現」か「字数不問」かなど，客観的な表現を用いて設定した。

問二では，表現の仕方を工夫する力を問う。「どのような工夫をしたか」を問うだけでなく，「何のために，どのような工夫をしたか」という目的も問いたかった。そのため，記述式で工夫を述べさせた上で，その目的は「工夫の効果」として問い，こちらは選択問題にした。

採点基準は次のように設定した。

Ａ評価：工夫を三つ以上答えており，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」の全てについて，得られる効果とともに述べている。
Ｂ評価：工夫を三つ以上答えており，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」のうち２点について，得られる効果とともに述べている。
Ｃ評価：工夫を三つ以上答えている。

問一と同様に，「三つ以上答えており」「『簡潔さ』『的確さ』『断定的』のうち２点」あるいは「……全て」という客観的な基準を設けた。採点基準中の「『簡潔さ』『的確さ』『断定的』」とは，『枕草子』の表現上の工夫の特徴を表したものであり，授業の中で「『枕草子』の表現上の工夫は，この三つのポイントに分けられる」と指導することを共通の指導事項としていた。この三つのポイントは，「限定された正解」となり，また「客観的な採点基準」となって，採点に要する時間の短縮につながった。

なお，工夫と効果の組み合わせは一つとは限らないこともある（【資料】参照）。例えば，「体言止めの多用」の効果には，ウの「簡潔で余情をもたらす」以外に，ア「端的で分かりやすくなる」，キ「リズミカルになる」もある。工夫から得られる効果として適切であれば，二つのポイントが同じ記号でも可とした。

結果的には『枕草子』の表現上の工夫を答えさせているように感じられるが，「随筆を書く」という確かな目的をもって作品を読み，実際に創作もしている。また，あくまでも「Ａさん」の表現上の工夫を答えるので，『枕草子』の特徴として挙げられる連体止め（連体形止め）は不正解とした。枕草子の工夫を知っているだけでなく，生かすことがどういうことか＝具体的なイメージをもって活用できるかとい

う点で，「書くこと」における思考力等を評価していると言えるのではないか。

【資料】実際の生徒の解答（正答）

・無駄な言葉がなく，簡潔な表現で書かれている。（ア）……簡潔さ
・体言止めを多用している。（ウ）……簡潔さ
・短い文を重ねている。（キ）……簡潔さ
・テーマに対して多面的に例を挙げている。（イ）……的確さ
・誰にでも起こりえることを書いている。（イ）……的確さ
・言い切っていて断定している。（オ）……断定的

４生徒の取組状況と採点の実態

(1) 生徒の取組状況

取組状況は良好だった。完全に空欄である答案はほぼなく，自分の言葉で解答しようという前向きな姿勢が見られた。また，「断定的」にまで言及できたのは各クラス２名ほどで，多くの解答がＢ評価だった。Ｂ，Ａ評価に達しない原因は「説明不足」，つまり表現の問題である解答が多かったが，解答の内容そのものは，おおむねこちらが求めるものであり，単元を通して身に付けさせたいと考えた力は，ある程度，身に付いていたと思われる。

(2) 採点の実態

自由記述の問題としては，採点基準は明確であり，基準の理解は容易であった。反面，妥当な内容が３点以上あるか，「簡潔さ」「的確さ」「断定的」のうちどの点について述べているのか，「効果」の記号と合致しているか，それが幾つあるか，というように，ＡＢＣの判定をするまでのプロセスが複雑であると感じた。また，解答のバリエーションはやはり多くなり，どの程度まで許容するか，表現の差異による採点をどうするかという認識のすり合わせには，ある程度の時間を要した。

５　研究の成果と課題

(1) 成果

パフォーマンス課題との差別化をする考え方を得られたことが一番の成果である。パフォーマンス課題では見取りづらい「どう考えたか」という側面を測ることができた。随筆執筆の言語活動を評価する中で，作品の完成度を評価するとともに，完成作品から執筆の過程を見取ったり，生徒一人一人の活動の様子を観察したりする労力を考えると，評価の場面を分散することができたと考える。また，考査は，その特性上，曖昧さや感覚的な（主観的な）評価でなく，絶対的な評価が求められることから，作品の仕上がり具合や生徒のセンスに左右されることのない評価ができ，その点では評価疲れの解消につながるのではないかと思われる。

また，無解答がごく少数であったことから，取り組み易さも適切だったと考える。「効果とともに工夫を答えよ」という記述問題ではなく，設問を分け，問二を選択式にしたことで，生徒の心理的なハードルは低くなっただろうし，選択肢から問一のヒントを得た生徒もいただろう。

採点基準に関しては，客観的（絶対的）な表現を用いて基準をつくることにより，採点の曖昧さや採点者ごとの裁量の差が生じないようにできた。

(2) 課題

採点基準が客観的で明快でも，実際の採点作業におけるプロセスがシンプルでなければ，結局採点は煩雑になる。本研究の場合，問二においては，「工夫についての記述の数と内容で〇点，更に効果が合っていたらそれぞれ△点」のように配点を分けるだけでも，採点者の思考は単純になったかもしれない。あるいは，シンプルになるような出題の仕方にするのもよいだろう。例えば，「リズミカルな印象を受けるのはどのような工夫がされているからか述べよ」のような問いが考えられる。生徒の状態に応じ，取り組みやすさや求めたいレベルと併せて工夫できるとよい。

また，解答のバリエーションには内容だけでなく表現の違いもあるため，初めに合議制で採点をすることは，認識のすり合わせにかかる時間を短縮する手だてとなる。

問い　次の文章は、Aさんが「枕草子」「はしたなきもの」について執筆した随筆である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

【Aさんの随筆】

【（　　）もの。寝坊。落とし穴。抜き打ちテスト。サプライズパーティ。偶然の再会。突然の別れ。時間の経過の速さ。

友達が、前触れもなく自慢の長い髪をバッサリ切ってきたこと。最終回ではじめて登場した人が犯人だったときは（　　）。一話目から出ていた全く無名の俳優が犯人だったときも。単なるクラスメイトだと思っていた子に好きだよと言われたとき。でも、もっと（　　）のは、そう言われて嬉しいと思った私の心。

問一　Aさんの随筆を読んで、（　　）に入ると思われる適切な言葉を考えて答えよ。

問二　Aさんは随筆を書く中で、どのような表現上の工夫をしていると言えるか。箇条書きで、三点以上答えよ。また、その工夫から得られる効果を、アークから選んで、記号で答えよ。（同じ記号を複数回使用してもよい。）

【選択肢】

ア　端的で分かりやすくなる。
イ　読者の共感を得られる。
ウ　簡潔で余情をもたらす。
エ　重厚感が出る。
オ　説得力が増す。
カ　読者の価値観にゆだねる。
キ　リズミカルで読みやすくなる。
ク　スピーディで迫力が出る。

＜考査研究３＞和歌の内容を読み取ろう（言語文化　読むこと）

１　研究の背景

本研究は，「作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈すること」を単元の目標の一つとして，内容を理解し，解釈する力とそれを踏まえて表現する力を測るための考査問題の作成を行った。授業で男の詠んだ「筒井筒～」（『伊勢物語』）の和歌の解釈や書き換えをグループで取り組ませ，ルーブリックを用いて相互評価させた。そこで，考査では女の詠んだ「くらべこし～」の和歌について，本文の内容を踏まえつつ，和歌に詠まれた女の心情を自分の言葉で書き換えさせる問題を設定した。本研究を通じて，身に付けさせたい力を測る適切な考査問題の作成方法と，持続可能な評価方法の検討材料を提案する。

２　指導目標

(1) 考査で測りたい力

作品の内容を読み取り解釈する力とそれを踏まえた表現する力

作品や文章に表れているものの見方，考え方を捉え，内容を解釈することができる。 〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂ(1)イ

(2) 教材

『伊勢物語』「筒井筒」

(3) 対象

定時制　普通科　１年生　17名

３　実施した考査問題と採点基準

(1) 考査問題（問い）

「くらべこし～」の和歌について，和歌の贈答にいたるまでの本文の内容を踏まえつつ，女の気持ちが分かるように，自分の言葉に書き換えて答えなさい。　【配点・10点】

問いの作成においては，「会話形式」や「選択肢」の問題も考えたが，今回は「思考・判断・表現」を問う問題であり，「知識・技能」を使って和歌の内容を自分の言葉に書き換える・表現することに主眼を置いた。また，過去に作成したものをベースに，新学習指導要領に合わせた問題になるようアレンジした。

(2) 採点基準

①大人になってからの恥じらいの気持ちがある。 ②親が勧める結婚話を断っている。 ③髪の長さについての記述がある。 ④髪上げについて「反語」を用いている。 ⑤男と結婚したい心情の記述がある。　【各２点・計10点】

(3) 解答例

大人になりあなたと顔を合わせるのは恥ずかしいけれど①，親が勧める他の男との結婚話は断り②，あなたを夫にしたい（結婚したい）⑤と思い続けている間（いちずに思い続けている間）に，幼い頃あなたと長さを比べ合った私の振り分け髪も，肩より長くなりました③。（私も成人の儀式を行えるほどに成長しました。）あなたでなくて他の誰がこの髪を結い上げるのでしょうか，いや(私の夫となる人は)あなた以外にいません④。

採点基準については，和歌の贈答にいたるまでの本文の内容（①・②）と和歌に表れている女の気持ち（③～⑤）が分かるように，自分の言葉に書き換えているかをポイントとした。①と②は本文の内容を踏まえつつ，「親のあはすれども」や「聞かでなむ」の知識・技能の理解を確認し，③と④は和歌の内容を解釈しつつ，「反語」を理解して書き換えているかを見ている。⑤は「書き換え全体のどこかに記述があればよい」とした（「解答例」では，書き換えの中盤に記述されている）。また，漢字の間違いなど表記上の間違いは問わず，①～⑤それぞれ２点の配点で，10点満点とした。

しかし，本校１年生の２学期中間考査で，このような「問い」に答えることは「正直，難しいであろう」と考え，そこで授業の中で男の和歌を使って，和歌の書き換えにチャレンジさせることにした。授業において，男の和歌の内容を捉える中で本文の内容に触れ，考査において，女の和歌を自分の言葉に書き換えさせることで，生徒の読み取る力や解釈する力，それを踏まえた表現する力を測ることにした。

下記に授業の中でどのように男の和歌を扱ったのか，授業案を抜粋したものと和歌の書き換えで使用したルーブリックを提示する。

(4) 授業案（抜粋）と和歌の書き換えで使用したルーブリック

時間	授業案・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
2	**本文の内容を踏まえつつ，男の和歌を自分の言葉に書き換える。（グループ活動）** ⑤和歌の贈答にいたるまでの男のことに関する本文の内容を書き出す。 ⑥男の和歌を直訳する。 ⑦本文の内容を踏まえつつ，男の和歌を自分の言葉に書き換える。（ワークシート）。 ⑧各班で書き換えたものを回し読みし，相互評価する。（ワークシート）。		◎	◎	・記述の確認（ワークシート） ・行動の確認

	和歌の書き換え（ルーブリック）
A	本文の内容や構成，展開などについて的確に読み取ることができ，和歌に表れている女の気持ちを的確に自分の言葉に書き換えている。
B	本文の内容や構成，展開などについておおむね読み取ることができ，和歌に表れている女の気持ちをおおむね自分の言葉で書き換えている。
C	本文の内容や和歌に込められた心情について，一部分でも読み取り書き換えている。

問いの中で，「本文の内容を踏まえつつ」としたので，和歌の書き換えだけができていても「A評価」とはならず，あくまで本文の内容と和歌，両方の書き換え・解釈が的確にできているものだけをA評価とした。

４　生徒の取組状況と採点の実態

(1) 生徒の取組状況

【資料１】得点分布の０点５名は，日本語指導が必要な生徒であった。そのうち，無解答が３名，本文を写しただけの解答が１名，何か書かれているが意味がとおらない解答が１名であった。全体で10点満点の生徒はいなかったが，授業で男の和歌の書き換えに取り組んだことで，考査ではほとんどの生徒が問いに答えようとしていた。

【資料１】得点分布

【資料２】採点基準別の正答人数

採点基準別の正答人数		
	採点基準	人数
①	大人になってからの恥じらいの気持ちがある	2
②	親のすすめる結婚を断っている	4
③	紙の長さについての記述がある	9
④	髪上げについて「反語」を用いている	6
⑤	男と結婚したい心情の記述がある	6

(2) 採点の実態

【資料２】で分かるように，点数に差ができたのは，採点基準①と②の「本文の内容を踏まえつつ」の部分であった。また，採点基準⑤の記述を忘れてしまったという生徒もいた。全体として，男が背丈を用いて自分の成長を表現したことに対して，女が髪の長さで成長を表現した点を多くの生徒が書き換え，表現できた。また，採点基準④「髪上げについて『反語』を用いている」を満たすことができた生徒が３分の１もいたことは，例年にはなかったことである。

５　研究の成果と課題

(1) 成果（生徒の振り返り）＊一部抜粋

- 和歌を書き換えるまでは，難しい言葉ばかりで理解するのに時間がかかりましたが，やっていくと素敵な物語だと分かりました。
- 言語文化の授業は，和歌に限らず難解ですが，一つ一つの言葉を理解できるように勉強していきたいと思います。
- グループで話し合ったり，みんなの意見を聞いたりして，いろいろな捉え方があって，面白いなと思いました。
- テストで自分が納得できるところまでできた。和歌が苦手で，やる前は自信がなかったけど，今は古文の授業が楽しみです。

自分の言葉に書き換えることができず，「苦労した」「難しかった」という振り返りが多く見られた。その点では，授業の改善が必要であるが，和歌を中心とした歌物語の読み取りを通して，古文に対する興味・関心を広げることができたと思えるような振り返りも多くあった。

(2) 課題

本研究は，考査と評価についての研究であったが，考査問題の作成に当たっては，「思考・判断・表現」の観点全てを踏まえることや，問いが曖昧になり，解答が主観的になってしまうことなどが課題となった。また，評価については，複数の教員で話し合い，深めていくことが必要だと痛感した。そして，本研究を通して改めて感じたことは，「授業を大切にする」ということである。授業において学習に向かう意欲を高め，「知識及び技能」や「思考力，判断力，表現力等」の向上を図り，考査などで資質・能力の伸長を確認する。今回は授業において，男の和歌を考える中で本文の内容を解釈し，考査において女の和歌を自分の言葉に書き換えさせることで，生徒の読み取る力や解釈する力，表現する力を測った。生徒の感想からは，古文の授業全体のことや和歌の書き換えに関することだけでなく，我が国の伝統や文化に対する意欲の高まりを実感することができた。今後も継続して，適切な考査問題の作成と持続可能な評価方法の検討していきたい。